

# メサラジン注腸 1g「ケンエー」 使用説明書

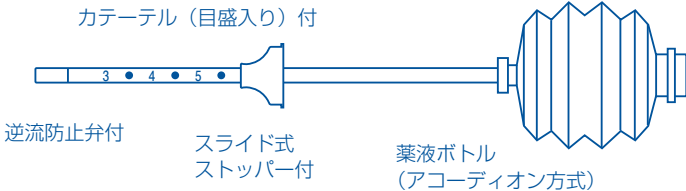
## ご使用の前に必ずお読みください

健栄製薬株式会社

- ・このお薬は光及び酸素の影響で分解されやすいため、脱酸素剤とともにアルミ袋に入っています。
- ・アルミ袋を開封したものは保存できません。
- ・上澄み液が変色したものは使用しないでください。
- ・ご使用直前にアルミ袋から取り出し、開封後は速やかにご使用ください。

他のメサラジン注腸剤とは**容器の形状**や**挿入までの準備**が一部異なるのでご注意ください。

### メサラジン注腸 1g「ケンエー」 製品内容



カテーテル（目盛り）付  
逆流防止弁付  
スライド式ストッパー付  
薬液ボトル（アコーディオン方式）


- ・ **事前の組み立てが不要**  
カテーテルとスライド式ストッパーがあらかじめ装着され、黄色のキャップで封がされています。
- ・ **注入時に薬液の逆流を防ぐ容器**  
アコーディオン方式を採用することで1回で十分な量の薬液を注入でき、さらに逆流防止弁により薬液注入後の薬液ボトルへの逆流を防ぎます。

### ご使用にあたって

- ・事前に排便を済ませておきましょう。ご使用後に便意をもよおすことがあります。
- ・注入した薬液を長時間大腸内に保持（排出せずに維持）するために、日常生活を妨げない入浴後や就寝前などに注入するのが一般的です。

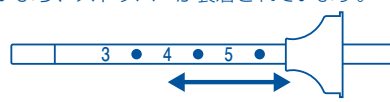
### ご使用方法

#### 1. ご使用前（必要に応じて行ってください）



- ・ **腸を刺激しないために**  
薬液が冷たいと腸を刺激することがありますので、冬などの室温が低い場合は、適温のお湯につけ、体温程度に温めてご使用ください。
- ・ **温度の上がり過ぎに注意**  
アルミ袋から容器を取り出して加温する場合は、温度の上がり過ぎにご注意ください。

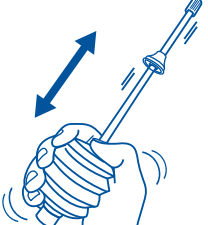
#### 2. スライド式ストッパーの使い方



メサラジン注腸 1g「ケンエー」では、カテーテルが肛門内に過度に深く挿入されないよう、ストッパーが装着されています。

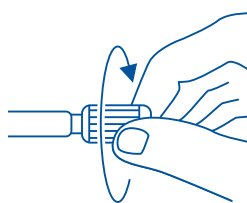
- ・ **使用前に必ず目盛の4～6cmの間にストッパーがあること**  
カテーテルが肛門内に入りすぎると直腸粘膜を傷つけることがあるので、必要に応じてストッパーをスライドさせて挿入深度を調整してください。

#### 3. 薬液の懸濁



- ・ **キャップを開封する前に容器をよく振ってください。**  
よく振って混ぜ、白い懸濁液としてご使用ください。白い沈殿物がお薬です。上澄み液だけが先に出てしまうと、お薬が詰まったり容器に残ったりすることがあります。

#### 4. 容器の開栓



- ・ **キャップの開栓**  
カテーテルをしっかり持ち、カテーテル先端にある黄色のキャップを回すように取りはずしてください。キャップを取りはずす際は、薬液がこぼれないようにご注意ください。

#### \* 挿入する前に（必要に応じて行ってください）



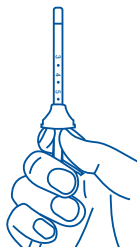
- ・ **スムーズに挿入する方法**  
挿入しづらい場合は、カテーテルのストッパーより先端の挿入部に潤滑剤（ワセリン、オリーブ油等）を塗ってご使用ください。

#### 【ご注意】

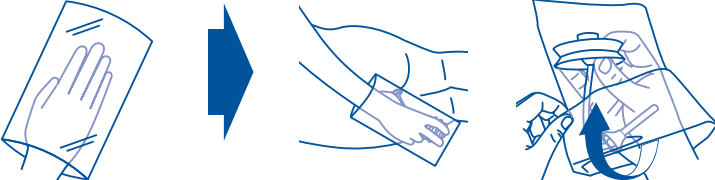
- ・ まちがって目に入ったり、からだに付着した場合は、水で洗い流してください。それでも何かおかしいと感じたら、医師にご相談ください。
- ・ 薬液がシーツや下着などに付着するとしみになります。洗濯するなどすぐに洗い流してください。

## 5. 挿入時の容器の持ち方

## \*手を汚さないようにする方法



- ・ **ストッパーの下部に指を合わせて持ちます。**
- 左記の持ち方で挿入しづらい場合は、カテーテルの先端を持ってください。
- ・ **挿入の目安：4～6cm**



同封のポリ袋を手にかぶせて容器を持ってください。

ポリ袋を裏返すことで、手を汚さずに廃棄することができます。

## 6. 挿入時の体位

- ・ **必ず左腰を下にして横になって挿入してください。**

**例 1**



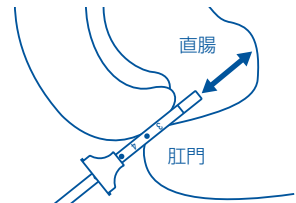
**例 2**



**例 3**



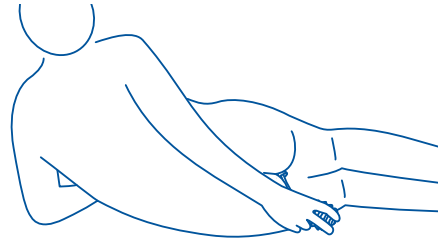
## 【挿入時のご注意】



- ・ **カテーテルが入る長さには個人差があります。**  
無理に挿入すると直腸粘膜を傷つけることがありますのでご注意ください。
- ・ **必ず横になって挿入してください。**
- ・ **立った姿勢やトイレで座った姿勢での挿入は、直腸粘膜を傷つける可能性があります。**

## 7. 挿入と薬液の注入

- ・ **挿入前に、再度、薬液がこぼれないように混ぜて、白い懸濁液としてください。**  
キャップを外した状態で激しく振ったり、薬液ボトルを上にしてカテーテルの先端を下に向けたりすると、薬液がこぼれることがあります。




- ・ **左腰を下にした体位で、肛門からカテーテルをゆっくり無理をせず慎重に挿入します。**
- ・ **薬液をゆっくりと注入してください。**  
注入時間は1分程度が目安です。  
注入時に薬液がもれる可能性があります。必要に応じて防水シートなどを敷いてご使用ください。
- ・ **注入後、ゆっくりとカテーテルを抜き取ります。**
- ・ **残液、使用した容器は廃棄し、再利用しないでください。**


## 8. 下行結腸（脾彎曲）まで到達させる体位変換

\* 体位変換は医師の指示のもと、必要に応じて行ってください。


①左下（薬液を注入後、②～⑤の体位変換を行ってください）




⑤右下（最後に、右腰を下にして、1分間静止してください）



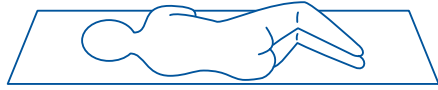
②腹ばい（腹ばいになり、1分間静止してください）



④仰向け（仰向けになり、1分間静止してください）



③左下（再び左腰を下にして、1分間静止してください）



※体位変換終了後は、楽な姿勢でおやすみください。

- ・ 十分な効果を得るためには、注入した薬液をできるだけ長い時間大腸に保持しておくことが大切です。
- ・ 薬液を全量入れるとすぐに排出してしまう場合は、無理せず保持できる液量から開始してください。次第に全量が注入できるようになります。